皆さん、初めまして、よろしくお願いいたします。

沖縄で精神保健福祉会連合会という、家族会を母体として、精神保健福祉事業に携わる団体の事務局長をしています、高橋年男と申します。年齢は、67 歳です。B 型事業所、地域活動支援センター、グループホームなどを設置運営しています。

コロナ事態で、事業所は感染防止対策を取りながらの運営です。日々の活動への参加が減っており、自宅での作業を呼びかけたりもしていますが、事業所に通えなくて、体調に影響が出ている方も増えています。

沖縄は、コロナ感染者が、人口比率で比べると全国一多い地域です。沖縄は、観光業への依存が大きくて、仕事での出張も含めて、県外からの感染持ち込みがどうしても避けられません。1 月末に、例のダイヤモンドプリンセス号が沖縄（那覇港）に寄港し、このクルーズ船の感染者が沖縄各地をタクシーやバスで観光したことから、地元の運転手さんなどが沖縄では最初に感染してしまいました。横浜港に停泊して大きな問題になる直前のことでした。

4 月～5 月には全国と同じように、感染の第 1 の大きな波がありましたが、5 月ゴールデンウィーク直後から 7 月上旬までの 2 カ月間は、対策が行き届き、沖縄での感染者はゼロが続きました。

しかし、7 月 7 日から、今度は沖縄の米軍関係者から感染が広がり、第 2 波が始まりました。世界一感染が蔓延しているアメリカから、軍用機やチャーター機に乗って嘉手納基地などに降り立ち、成田や関空のような日本の検疫を受けずに入国してきます。そして、フリーパスで県民の生活の場であるフェンスの外に出てきて、感染が広がったわけです。とくに 7 月 4 日はアメリカの独立記念日で、この日を祝うバーベキューやビーチパーティーが派手に行われた結果、普天間基地などで大規模クラスターが発生し、辺野古埋め立て問題で揺れるキャンプ・シュワブなどにも広がりました。在沖米軍の感染者数は、400 名を超えています。100 人に 1 人の割合、驚くべき数字です。

また、ちょうどその同じ時期に、政府の GoTo キャンペーンも始まり、観光と米軍からのダブルパンチで、沖縄での感染が、人口比で全国一となったわけです。マスコミの全国報道では GoTo の影響については報道されますが、米軍がもう一つの大きな原因であることは全くニュースになりません。戦後 75 年も続く米軍の占領地同然の沖縄は、コロナ事態において、改めて米軍によって県民生活が脅かされる事態に晒されています。

米軍統治下で精神障害者の私宅監置に使われたコンクリートの隔離小屋が沖縄に残っています。これは、精神保健福祉施策が全く顧みられなかった過去を問い、現在の精神科病院の在り方を問う「モノ」です。小屋はその建っている場とともに、唯一無二の、複製ではない物質的存続に宿るオーラ、歴史的証言力、衝撃力をまとっています。この監置小屋の保存を訴えるドキュメント映画の全国上映が始まります。来年 3 月から上映の予定ですが、津々浦々で上映ができるように、上映会場の紹介などご協力をいただければ幸いです。

以上です。